

■第4回 安芸市都市計画マスタープラン策定委員会における指摘事項と対応

- ・令和元年7月26日（金）、「第4回 安芸市都市計画マスタープラン策定委員会」を開催しました。
- ・第4回策定委員会における指摘事項について、今後の対応を以下に示します。

（1）都市計画マスタープランについて

No.	指摘事項	事務局の対応方針
1	・都市計画区域は旧安芸町の区域で指定されています。新たな土地活用は考えがたい山林部分の区域除外を含めて、区域見直しを検討していくべきだと考えます。（竹部副委員長）	○都市計画区域の見直しについて（p4-17） ・都市計画区域の「拡大」を「見直し」に変更しました。 ・「4.3.1 都市計画区域見直しの検討方針」とし、本文中を以下としました。 ・このようなことから、安芸市は今後、将来人口や産業の見通し、総合計画などのまちづくり計画の進捗状況等を把握した上で、都市計画区域の見直しについて検討します。これにより、用途指定や地区計画制度等の都市計画手法の活用を可能とすることで、無秩序な都市化をコントロールし、安芸市の持続的な発展に資する適正な土地利用を進めることとします。
2	・「誘導」という言葉が使われていますが、具体的にどうやって誘導するのか議論が必要です。（委員長）	○「誘導」について（計画書全般において） ・「誘導」は都市計画手法としての「誘導」と、観光における来訪者の「誘導」や市民の避難時の「誘導」などがあります。都市計画手法としての「誘導」は具体的な内容がわかるような使い方として修正しました。（文中「赤字」として示しています。）
3	・新たな土地活用は考えがたい山林部分の区域除外を含めて、区域見直しを検討していくべきだと考えます。（竹部副委員長） ・西側の区域界付近では、区域外の穴内地域と大きな違いがない土地利用となっています。これらの区域は都市計画区域から除外し、新市役所周辺は広げた方が良くはないでしょうか。（門脇委員）	○都市計画区域西側山林部分の都市計画区域の除外について（p4-52、54） ・当該山林部分は、安芸市の水と緑のネットワークと位置づけています。 ・当該地は、当面10年以内となる開発の計画がないことや、市街地の環境保全の意味を勘案しつつ、今後、都市計画区域見直しに伴い検討することとします。 ○新市役所周辺の都市計画区域の見直しについて（p4-17） ・「4.3.1 都市計画区域見直しの検討方針」として、今後見直しについて検討します。

No.	指摘事項	事務局の対応方針
4	・植野工業団地は一部都市計画区域となっています。全体を都市計画区域にしてはどうでしょうか。（門脇委員） ・都市計画区域見直しの良い機会ですので、今後整理していったはどうでしょうか。（委員長）	○植野工業団地の都市計画区域への指定について（p4-40） ・植野工業団地は、開発が終了しています。今後、新たな開発や用地取得の計画がないため、都市計画区域への編入は考えていません。継続して、検討します ・「4.4.2 市街地整備の方針 [[3] 工業系市街地整備に関する方針」○現行の工業系市街地に以下を示しました。 ・「植野工業団地は、現在の機能の維持・向上とともに、さらなる工業施設の集積を進めます。」を「植野工業団地は、現在の機能の維持・向上を図ります。」としました。
5	・学生の回遊性について注目しています。学校が郊外に移転すると、駅周辺や中心市街地に学生が来なくなる可能性があります。わざわざ来てもらえるような、また、人口減少が少しでも緩和するような、拠点形成やネットワークづくりが必要です。（委員長） ・阿南安芸自動車道が開通すると市街地を通過しなくなる可能性があります。市街地に来なくなるような仕組みづくりが必要です。（委員長）	○周遊型ネットワークづくりについて（p4-18、19） ・「4.3.2 新たな拠点と周遊型ネットワークの形成方針」の〔1〕新たな拠点形成に関する方針（都市拠点・教育拠点・交通の拠点）〔2〕拠点周遊型ネットワークの形成と沿道土地利用に関する方針において拠点形成やネットワークについて検討します。
6	・「誘導区域」が使われていますが、都市計画マスタープランにおける誘導区域とはどのように誘導していくのか。安芸市においては現在居住している方は住み続けていただくことを、一般の方にも理解していただく必要があります。安芸市で津波が発生したらまず逃げる。津波が引いた後は生活を再建する。安芸市での誘導の考え方を整理していく必要があります。（秋元委員）	○「誘導区域」について（p4-23） ・「4.3.3 災害に強い都市防災の方針〔1〕南海トラフ等による地震・津波の災害対策に関する方針」○誘導区域の検討の方向」において、「○誘導区域の検討の方向」を「○中心部における持続的なまちづくりの検討の方向」とし、説明文として以下のように訂正しました。 ・「このため、中心部で持続的にまちづくりを行うにあたっては、津波浸水のハザードエリアや土砂災害危険箇所等を勘案した複合的な取り組みのもと、安全対策が可能な地域として、居住を維持するとともに新たな居住者も住み続けられるように取り組みます。」

No.	指摘事項	事務局の対応方針
7	- 全体構想案における本町通りの位置づけが薄いように感じます。やる気が起きるような、明確な役割を設定していただきたい。保育園、安芸高校、小中学校の移転が予定されており、前向きな内容がなく光が見えてこない。（松本委員） - 都市機能が減少すれば、日常の活動も減少します。跡地利用については、イベントなどの一過性のものではなく、日常的な利用方法を議論する必要があります。（委員長） - 学校跡地は市民が期待できるものとしていきたい。室戸市では廃校を水族館として活用しています。本町通りへ人の流れる仕組みづくりが重要であると思います。（仲田委員） - 魅力的な商店街づくりに向け頑張っている方もいらっしゃいますが、来訪者が少なくなり、空き店舗が増えています。市役所や学校等の都市機能が減るとさらに深刻になる可能性があります。空き家の活用のための情報発信や、活性化のアイデアが必要であると思います。（北村委員）	○中心市街地の魅力づくりについて（p4-28） 「4.4.1 土地利用の方針〔1〕魅力ある中心市街地の形成に関する方針○魅力ある「（既存）中心市街地及び周辺」（都市拠点）の形成」において、中心市街地活性化基本計画について検討する旨を以下のように記載しました。 「中心市街地の商店街は、地域の顔となる商業地として土地の有効利用を図り、魅力と特色ある商業空間の創出を図るため、中心市街地活性化基本計画について検討します。」 ○公共施設の跡地利用について（p4-21） 「4.3.2 新たな拠点と周遊型ネットワークの形成方針」の〔3〕公共施設跡地の有効活用に関する方針において、公共施設跡地の有効利用について示しました。

No.	指摘事項	事務局の対応方針
8	障がい者施設は津波から避難しなくてもよい場所に立地させる方が良いですが、利便性を考慮すると市街地から離れない方がよい。ため、交通手段とあわせて考える必要があります。（門田委員）	○災害弱者の交通手段について（p4-26） 「4.3.3 災害に強い都市防災の方針〔4〕避難場所・避難できる路などの整備・充実と防災意識の向上に関する方針○災害弱者への対応」において、以下を示しました。 「高齢者、障がい者等の災害弱者のための道路整備を推進します。」
9	ユニバーサルデザインは障がい者や高齢者に特定しない方がよいのではないのでしょうか。（門田委員）	○ユニバーサルデザインについて（p4-44） 「4.4.3 都市交通の方針〔3〕人にやさしい道路づくりに関する方針」において、以下を示しました。 「ユニバーサルデザインの視点に立ち、生活道路・通学路、自転車・歩行者道について、全ての人への安全性・利便性・快適性の確保を図ります。また、公共公益施設へのスムーズなアプローチを確保します。」
10	高齢者施設は固まって立地する方が効率的な対応ができます。また、食事が提供できる高齢者住宅など、高齢者の住宅対策を検討いただきたい。コミュニティの中で高齢者が自立した生活ができます。（岡田委員）	○高齢者等の居住環境について（p4-34） 「4.4.1 土地利用の方針《ゾーン別土地利用方針》[住居系ゾーン]」において、以下を示しました。 「このゾーンは、駅や商業業務機能の配置にあわせ、まちなか居住を中心とした若者や子育て世代、高齢者、障がい者にとって良好な居住環境として、中心市街地活性化基本計画とともに検討します。」
11	公共交通の空白地帯はどうか。バス停などの拠点間のつながりが必要です。また、東西ルートから南北ルートなど、拠点間のルートを強化していく仕組づくりが重要です。（委員長）	○拠点間のルート設定について（p4-43） 「4.4.3 都市交通の方針〔2〕公共交通サービスに関する方針○多様な交通手段の充実」において、以下を示しました。 「東西南北を巡る拠点間の公共交通ネットワークの形成により、周遊型都市構造を実現します。既存の鉄道、路線バス、コミュニティバスのほか、多様な移動手段の役割分担と連携により、効率的な生活交通手段の確保を検討します。」 「商業施設、医療施設、福祉施設、子育て施設及び教育施設などの公共公益施設等の利便性向上につながるバスネットワークやデマンドタクシーなどの公共交通手段の確保を図り、市街地、中山間地域等の交通ネットワークを形成します。」 「また、病院の利用時間に合わせた市内循環バス（元気バス）など、運行コースや運行時間の充実、民間バス事業者との連携等によるバスサービスの充実を検討します。」